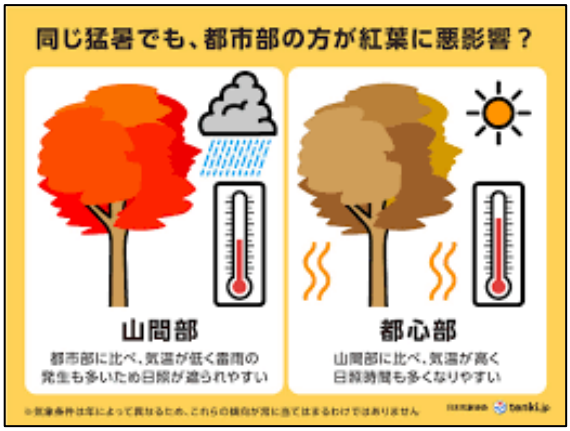
デジタル版
2025年
11月06日号
Vol. 183

成岡マネジメントオフィス事務所通信

NMO OfficeLetter

京都の紅葉が大ピンチ！

今年に限らず秋の紅葉シーズンになると、紅葉の色づきが非常に悪いことに気が付く。特に、ここ数年は顕著だ。2パターンあって、紅葉シーズンを待たずに落葉（葉が枯れて落ちる）減少と、紅葉はするが色づきが非常に悪いという現象だ。従来は後者の方が多かったが、今年に限っては夏の異常な高温続きで、落葉が目立つという。紅葉の名所であるいくつかの寺院や公園で、そのような現象が現れている。年々紅葉の最盛期は遅れており、11月中旬が下旬になり、昨今では12月の初旬でも楽しめる。何が原因か。



＜解説＞京都に限らず紅葉シーズンが後ろにずれて、12月になっている地域も多い。しかし、今年の特徴は早い落葉だ。この原因は、夏の異常な高温続きと水不足。夏の異常な高温は、京都では不名誉な？50-50を記録した。大リーグの本塁打と盗塁の記録ではなく、夏の期間に猛暑日を記録した日数と、夜間の最低気温が25度を下回らなかった日数を言う。京都は日本全国で、この50-50を超えた唯一の地点だ。つまり、昼間は極めて暑く、盆地であるので夜間も気温が下がらない。また、今年の夏は特に雨が降らなかった。そのため、植物の生育に大きなマイナスの影響が出た。多くのダムの貯水率が低下し、取水制限になる地域が出た。この2つの要因で落葉が激しく、既に秋の紅葉シーズンを待たずに、枯れた紅葉の葉が地面に落ちている。京都市左京区の永観堂では、直射日光が当たる区域の紅葉は落葉が激しいが、奥にある直射日光が当たらない区域の紅葉の落葉は、そこまで激しくない。以前から、京都に限らず秋の紅葉シーズンの色づきが悪いという指摘はあった。夏の猛暑が原因というのは明白だ。以前の素晴らしい色づきの紅葉を鑑賞したければ、標高の

高い地域や山の中腹以上に行かないと難しい。長野県や岐阜県の標高の高い観光地の紅葉の色づきは、まだ以前の輝きを維持している。そして色づきが濃くなるのは、夜間と昼間の温度差が大きくならないといけない。夜間の気温が下がらないと以前から色づきが悪くなる。今後、紅葉の名所が京都市内の有名寺院、観光地からなくなる懸念が出てきた。地球温暖化のなせる現象だが、現状では手の打ちようがない。過去に撮影した素晴らしい色づきの紅葉が戻ってくることがあるだろうか。いつのことになるのか、皆目分からない。このまま秋の紅葉の景観が悪化したままになると、観光ビジネス自体にも悪影響は避けられない。

BUSINESS MANAGEMENT&COORDINATION
株式会社成岡マネジメントオフィス
〒616-8104　京都市右京区太秦下刑部町170
プレサンスロジェ太秦天神川駅前613
TEL:075-366-6611　FAX:075-366-6100　info@nmo.ne.jp

Copyright (C) Naruoka Management Office. All rights reserved.